

令和5年度 第7回

日南市教育委員会

会議録

令和5年9月25日(月) 午後4時から
日南市役所別館2階会議室6

- 1 会議の名称 令和5年度教育委員会 第7回会議（定例）
- 2 会議日時 令和5年9月25日（月）
午後4時00分から午後5時10分まで
- 3 出欠確認
 - (1) 出席委員 都甲政文、黒木由香、別府信一、八木真紀子、佐藤泰信
 - (2) 事務局 教育部長兼学校教育課長
学校教育課学校教育担当監
学校教育課課長
学校教育課管理係長
学校教育課管理係主査
- 4 場所 日南市役所別館2階会議室6
- 5 傍聴者 0名
- 6 開会
【都甲教育長】
「それでは、令和5年度第7回日南市教育委員会定例会を始めさせていただきます。」
- 7 出席者及び傍聴者確認

【都甲教育長】
「出席者の確認をいたします。教育委員5名全員出席でございます。事務局の出席者の確認をお願いします。」

【田中部長】
「事務局は、全員出席です。」
- 8 活動報告
 - (1) 教育長活動報告
【都甲教育長】
・8月25日、日南市災害対策本部訓練というのがありました。これは各課の課長級が集まってですね、アドバイザーの先生いらっしゃるんですけど、この方東北の大震災を経験された方なんですけど、その方のご指導のもとにですね机上訓練をしました。例えばです

ね、震度7、8の地震があつて連絡がつかないとかですね、そういうのでどうするのかとか時々メモが来まして、鶴戸小中学校はみかん山に逃げて孤立しているとかですね、そういうのが来たりとか、そういうのを受けていろいろ考えたわけですけど、初めてこういうのをやってみて痛感したのは、やっぱり各学校が地震の訓練してますけど、これ、同じ日にやらないと意味がないんじゃないかと思ったんです。地震は同じ日なので、火事とかは別ですけど、うちも絡めて一緒にある日を地震訓練にして、うちに連絡をもらう練習もする必要はあるのかなと感じたところでした。

・8月30日、第6回の校長会だったんですけど、夏休み中事故もなかったものですからお礼を言ひまして、実を言ひますと、夏休み中に1年目から4年目の先生達を集めてですね、研修したんですよ。なかなかみんなが集まる研修の機会がなかったので、先輩後輩としていろいろやって、日南に何かの縁で来た先生達なので。4年経つと日南出なきゃいけないんですよ、やっぱ職員の人事異動の関係で。そういうのもあつてやったんですけど、そのことをお話ししてですね、関連して、結局研修とか行って帰ってきて、先生達にその研修のいろんなことをするためにやっぱ校長とか教頭がどういう研修だったという話をし、ちゃんと落としてやらないとわからないんじゃないかと考えてですね、その話をしました。そのコミュニケーションをスムーズにするために大事なのが、今言われてる心理的安全性ってあつて、何を言ってもOKとか失敗はOとか、新しいこと大丈夫というというのがあつてですけど、そういうのを、これ以前から校長会で話してるんですけど、改めて心理的安全性について話しました。そして、先程言ひましたように、提案として地震の避難訓練をですね、次年度ぜひやりたいということをお願いしたところでした。

・同じ日に、社会教育委員の会があつたんですけど、これは社会教育事業についていろいろ意見をもらう会なんですけど、第1回の社会教育委員の会を行いました。

・8月31日、市のスポーツ協会の会長さんが市長に提案に来られました。これ油津のふさやす歯科医院の先生なんですけど、スポーツ少年活動の活性化に向けてですね提案をいくつかされました。市長も受け取つてですね、今後考えられることは考えていきたいというふうな返事をしたところでした。

・9月4日、吾田中学校の沼田頼人さんという、去年教育委員会表彰したんですけども、中学3年生の男の子がですね、水泳全国大会で400mと200m個人メドレーで2位という成績を収めました。何と、松田丈志さんが持っていた県の中学記録を抜いたりですね、非常に前途有望で、それこそ今日の宮日にも載ってました。また、鹿児島国体で少年Bという高校生も入るクラスで6位に入っていました。でも、この全国大会よりタイムが良くななくて悔しいというのが載ってましたね。なんかまた12月に今度は国際大会との新聞記事が載つたので、非常に前途有望で楽しみな生徒さんです。

・9月5日、ベル・リングングですね、今年も日南学園で行われました。ポーツマスとの交流行事なんですけど、講和条約が締結された午後3時47分にベルを鳴らすつてことで、今年以前の通りたくさんのお賓の方がお見えになって、黒木委員もですねちょうどお見えになったもので、また後で感想とかを聞かせていただければと思います。そして、その

時に、来年はポーツマスの高校生の受け入れを再開したいということを校長先生が仰ってました。

・ 9月20日、人事異動の方針説明会が教育事務所でありましたので聞いてきました。校長達にはですね、27日水曜日にリモートで実施するとのことでした。

- ・ 9月24日、毎年恒例なんですけど、文化芸術協会主催の文化フェスティバルに行ってみました。日頃の練習の成果を発揮されてですね、生涯学び続けることの大切さを改めて感じたところでした。

(2) 委員活動報告

【黒木委員】

8月30日に大堂津小学校の学校訪問に行ってきました。防災に対する意識がやはり大堂津は港町ということもあって高いなというのを感じました。こういう大堂津小防災マップというのも作っていて、すごく私も大堂津に住んでいて、やっぱり津波のことってのはもう日常不安に感じていることなので、子どもと一緒にこういうことを考えるってのはすごい大事なことだなと改めて感じたところでした。あと、先生達の大堂津小授業スタイルという、独特の専科時間割による担任の空き時間を確保できるようになるとかいった、働き方にも改革にも繋がるような取り組みをされていて、これがまた今年度だからできる時間割の組み方で、先生達の時間割何かこう特殊な組み方で、ちょっと私ばって見てすごいわからない複雑な時間割だったんですけど、それによって担任の先生の空き時間が出来て、ゆとりがそこにできるっていうことで、毎年この子どもの時間割を考えるとともに、先生達の時間割もこう考えていけないような時代になったんだなというふうに感じました。すごいその工夫にちょっとびっくりしたところでした。

9月5日のベル・リングングに教育長と一緒に日南学園の方に行かせていただいて、日露戦争の講和条約としてベルを鳴らしたっていうのが始まりらしく、きっかり15時47分に合わせてですので、市長の話だったりとか何か短すぎるとそこへの調整をしなきゃいけないようで、時間調整がちょっと難しいなというのを見ながら、きっちりこの時間にみんなでベルを鳴らしました。こういう願いを形にするっていうことが意識も高まるんじゃないかというふうに感じて、すごくいい取り組みだなと思ったところでした。

教育委員の活動ではないんですけど、幼稚園のPTAの大会、全九州PTA宮崎大会があって、ちょっとそちらの方に9月21日にシーガイアコンベンションセンターに参加させていただいて、基調講演が親野智可等さんという方の講演で、その親野さんの講演は叱らないっていう教育のことだったんですけど、その、甘やかすではなくて、叱らないでいいように工夫をするっていう、その言葉の工夫だったり行動の工夫だったり、そういった言葉とか、子どもを誘導することで怒らなくて済む自己肯定感を高めて、自己改革へのスイッチを入れましょうみたいな、話がすごくわかるようでできないようになってことだったんですけど、この講演を聞いて自宅に帰って、子どもに私の行動で怒らないで済むようにこうしてみようとやったら、もう自分のストレスもすごく減って、こういったことがま

た学校の先生とかにも適用するかどうかわからないんですけど、すごくためになる話だったので、また保護者向けとかにもこういった講演の皆さんに聞いてもらえるといいなと思ったところです。

あと、22日の日に日南市の表彰者審議会、11月の3日にある功労表彰の審議会選考委員に出席してきました。今年も11月3日の文化の日に表彰式典があるそうなので、また、どなたが表彰されるかというのを楽しみされたいと思います。

【八木委員】

私も黒木委員と8月30日に大堂津小学校の方に訪問させていただきました。中で、小規模校の九州教育大会で発表される竹口先生の、さっきお話あったように指導計画についてちょっと詳しく説明いただいたんですけど、やっぱりその中で、こないだの市長との教育会議でも話題に出ました働き方改革についてですね、それに通じるものがあったんですけど、やっぱり教員の負担軽減についてというのを本当に詳しく大堂津小学校でされて、先生がもう1年間の、例えばですね、計画年休としてもう年度初めに全部立てられているので、先生達みんな年休が取れるという、そういう状況を仕組みの中で作っているのも本当に素晴らしいなと。やっぱり工夫すると、先生達の働き方ももうちょっと楽になるんじゃないかなと思います。その中でも特に重要なのが学校事務っていうのを初めて知りました。もうはさみの置き場所はどこかとかも、そういう細かいことですね先生達もすごく言われて、すごい時間をあげて丁寧に学校の事務の整理を大堂津小はされてるみたいですね。だから、それによって先生達がすごい働き方が本当中枢なんだなという認識を感じました。そういったものが広がっていけばいいなと思いました。

【佐藤委員】

私も教育委員の仕事じゃないですけど、日南高校の評議員をしまして、エクセルシア祭にちょっと行ってきたら、1日目がハートフルでの発表でそれちょっと行かなかったんですけど、2日目が学校内の発表で、各教室、子ども達が趣向を凝らしたいろんなお化け屋敷とかいろいろやって、それがやっぱり自分達で企画してやるっていうのがですね、やっぱりすごく楽しいんでしょうね。子ども達が生き生きとやってたというのがすごく印象的で、まぶしいばかりの高校生がですね、うらやましいなと。それとですね、そのエクセルシア祭にちょっと配られてあったのが、家庭科なんかの発表がありまして、その子ども達がインタビューした資料があったんですけど、あそこは地域課題解決ですかねなんかそのようなものがあって、ずっと資料が貼ってあったんですけど、ほとんどがやっぱりアンケートをとったりはするんですけど、ネットで調べましたっていうのも多くてですね、今時だなあと思いながら、これはですね、子ども達が結構時間をかけて夏からお盆とか親戚が帰ってきたりした時に、インタビューした資料ですということ、子育て中の大人とかそれから障がいのある方とか、それからお年寄りの方とか

に結構丁寧にインタビューしてあって、こういうふうに、今はネットですぐ答えがでるじゃないですか、早く答えが出ることをよしとするような風潮があるんですけど、こういう地道にですね、ずっと聞いていく、直に顔合わせてっていうのもすごく大事だと思って、大事にされてるなとすごくいいなと思いました。

この中でですね、高校生の子育て中のお母さんに聞いたってということなんですけど、高校生の間で、妊娠や子育てについてどのようなこと学習しておくといいですかって、結構いっぱい書いてあってですよ、子どもが生まれるまでの準備や食事について高校の時から考えた方がいいよとか、ちょっと早いのかなと思うんですけど、高校の先生と話したんですけど、結局今の子ども達って、高校を出て就職もするけどたくさん進学するじゃないですか。進学してすぐ就職して、また今度は仕事が落ち着くまでって3年4年は、うちの子もそうなんですけどもうその仕事に邁進してですよ、子育てとか家庭を持つとしてはほとんど考える時間がないんですよ。で、気が付くともう、25、26、28になって、もう結局子育てですよ適齢期というのはまあまああるわけじゃないですか、やっぱ体力的にも何でも25~30ぐらいの間に産んだ方がいいよとか、男も女もやっぱそこで一番はね、確率的に高い。だからそういうなんというか人生ですよ、ステージを考える間もなくなんかバタバタ仕事行っちゃって、何とか仕事が落ち着いて結婚を考えても30ぐらいで、なかなかね、子どもを授かりたかったんだけどもそうもいかないねとかですよ、子どもを育てるためにはみんな東京とかにほとんど行ってしまいうけど、あそこは子どもを育てるにはなかなか難しい状況ですよ。満員電車でどうやって子どもを乗せてですよ、保育園連れて行くのかって考えると相当厳しい。だから、どういう人生を送りたいかっていうのをよく考える時間がですよ、もう後々になってしまっていて、やっぱ本当それを考えると、高校の時から自分はどういう人生を送りたいのか、子どもを儲けるんだったら、今ね、おじいちゃんおばあちゃんの力ってのはすごく必要なんで、だったら実家がいいかなとかおっしやれば日南帰ってくるかなとか、日南人口増えるところこういうサイクルにならないかなと、高校生の先生とちょっと盛り上がりました。

後はですね、これもあれなんですけど、教育委員の仕事じゃないんですけど、子育てトークっていうの、園児の保護者の方と月1回やってるんですけど、そこでちょっと出たのがですね、今年長で今度小学校に上がりますと、群馬から来た方なんです。近くに子どもがいるんでしょうか、誰とうちの子は小学校行ったらいんでしょうかって、それがわからないということ。だから今幼稚園と小学校の繋ぎをですよ、教育課程の部分で一所懸命どういうふうにしたら事業が進むかということ考えているんですけど、そうか、そこからわからないんだと思って。昔は子ども会とかあってですね、通知が来たら大体子ども会の責任者の方から、あなたはどこの子ども会の所属ですよというのが確か連絡が行って、その方が今度その子ども会にお世話になりますと。そしたら誰々ちゃんが近くにいるから一緒に行けばいいねとかどういう情報が出てたと思うんですけど、子ども会も確かもうほとんどないですよ。だから、誰と一緒に行ったらいいんだらうと。そこの下の子がいるもんだから、私が最初は小学校までついて行くと下の子の園の送りは誰が行け

ばいいんだとか、迎えとその小学校終わる時間が重なっちゃうけどどうしたらいいかとか、何かその辺からわからないという話で、そういった地域ですね、子ども会的な活動の大切さというか、何かそれに代わる何かですね、やっぱり必要なんだなというのを実感したところでした。

【別府委員】

自分も活動報告ではないんですけど、自分の知り合いの方でやっぱり学校に行けない不登校の子の親御さんがいて、その方がそういった保護者の人達を集めていろいろ座談会みたいなことを、この前9月に活動されたということで、でもその時はちょっと行けなかったけど、また、10月20日にされるということなんで、一応それに参加させて欲しいということでお話ししたら、ぜひぜひ来てほしいということ。前回9月に行われた時はもう数名で、ただ、数名だったから、学校行けない子どもは何してるのとか、親はやっぱり一人で悩んでないのとかっていう、そういった当人同士の何かすごい意見が出たようだったので、それにちょっと参加してみて、次の定例会の時にでもまた報告させていただくと思います。また、参加は誰でも大歓迎みたいなので、もし行かれる方がいればまた言っていただければ一緒に行かれるというのかなと思いますので、その案についてはご報告させていただきます。

【都甲教育長】

それはその親御さんがちょっと声かけられて、集まりませんかっていうことですか。

【別府委員】

Facebookとかでこういったのをしますって何人か集められて、その人はやっぱり結構コミュニティーっていうかそういったアンテナがあるんです。いろいろ繋がっていろんな人知ってるみたいで、呼びかけされてるみたいな話。前回市議会議員の方が一人来られ傍聴されたようです。

【八木委員】

南郷の方でもそういう不登校の人のお母さんが「夢見る小学校」って言ってご存じですかね、ドキュメント映画をハートフルセンターでやって、私も行ったんですけど、そういう方にとってやっぱり何かきっかけになるので結構たくさんの方が見えてました。

【佐藤委員】

うちの職員も行ったんですけど、あの中のと、パネルディスカッション。学校の先生当時小学校の先生がですねなんか出てました。

【八木委員】

なんか泣きながら、自分の子が不登校になって、これを一人で見るとよりみんなで見

たいなということで、発達障害の子とかも、学校には行きにくかったけどまあまあ自由な学校なんですね、もう授業もないような全寮制なんですけどそういう提案でした。ドキュメント見れます。「夢見る小学校」です。

9 前回の議事録承認

第6回の議事録について了承

10 研修

「生徒指導に関する報告について」 新改指導主事説明

【別府委員】

まず、「たけのこ」と「ブルーベンチ」というところは、これは有料のフリースクールになるんですか。大体どのくらいの金額なんですか。

【新改主事】

値段はですね、たけのこさんが月に8,000円程度ということ、ブルーベンチさんが1週間では1万円とのこと。

【別府委員】

結構利用者はいらっしゃるんですか。

【新改主事】

もうすでに利用者がいらっしゃいます。

【別府委員】

あと、いじめに関してはちょっとあれなんですけど、不登校の生徒さんの数っていうのは、他の市町村と比べて割合的にどうなんですか。

【新改主事】

その割合正確には出してないんですけど、会議とかでっていうのは、やっぱりそれぞれの市長村多いっていう話を聞きます。

【都甲教育長】

小中合わせて何人だったっけ。

【上村指導主事】

小中現在79人です。

【都甲教育長】

子ども達が3,000人ぐらいですよ。それが今の全体で3,000人ちょっといる中で、79名。

【別府委員】

最後なんですけど、くろしお支援センター教育支援センターの利用者に関してなんですが、さっき小中合わせて79名の学校に行けない方のうちの、南郷と足して現

登録したのが15名という形みたいなんですけど、小学生もいらっしゃるんですけど、中学生だけ。

【新改主事】

小中学生が対象なんですけど、現在の利用者を見ますと、ほぼ中学生ですね。小学生ももちろん申し込みがあつてるんですけど、それ一人一人に合わせて指導するんですけど。

【別府委員】

中学生が多いんですか。これ何故なんでしょう。小学生の保護者はそこまで家で見れるからという形なんですか。

【新改主事】

中学校になると、勉強とかその辺とかも考えることが多くなるのかなと思います。

【八木委員】

まずいじめのことでですけど、海外だとどちらかというといじめられる子よりも、いじめた子どものカウンセリングとか医療機関にかかるとかそういう考えがあるんですけど、そのいじめた子の対応っていうのは、子ども達、いじめられた子といじめた子の関係みたいなのも知ってるんですか。

【上村指導主事】

市内の事例で申し上げますと、一つの事案が起きた場合に学校としてももちろんいじめられた子の指導は、いじめられた子に寄り添って指導しています。それが、八木委員が言われた通り、いじめた方についても何かしら心理的に不安であったりとか、そういうことを抱えてるケースがございます。学校によっては、いじめた方に対してカウンセリングをお勧めする、カウンセラーとの面談をすることがあります。

【八木委員】

この間の市報にですよ、特認校のすごいしっかり説明があつて素晴らしいなと思ったんです。けれども、特認校ってどんなことしてるんだろうとちょっとネットで見たらですね、不登校向けの特認校やってるのは全国市町村だと、私が見た限りで4校あるんですけど。だから特認校の子どもに対する、その特別で何て言うかな、授業をやるようなところも全国的にこれから増えるのかなと思ったんですけど、そうすると、そのプログラムで、何か勉強嫌いないろんな子がいますよね、そういう子にはそういう、ちょっと特殊なちゃんとした専門の先生がついた、何て言うかな、教育をその場、特認校でやってるのがあるんだなと思ってます。日南市はそれやってないんですけど、そういう考え方もあるんでしょうか。方向に対する考え方として。

【新改主事】

教育機会均等法と、いろんな法律ができて学校に向けて教育機会が受けられていない子ども達に寄り添うという考え方があります、だから、日南市としましては、79人、数が多いんですけど各学校の先生達、担任の先生を中心に管理職教頭先生だったり、もちろん巡回相談員も含めて情報共有だったり、校長先生の方で積極的に関わっ

ておりますので、日南市としては各学校に一人一人どんどんやっているというところに力を入れている状況です。

【佐藤委員】

今八木さんが言われたのは本当に同感で、この前の市報にも書いてあったかな、この前訪問したのが酒谷小学校で、実際に不登校だった子がそこに移って、毎日来れるようになりましてというのもあったので、学校に来れないということをその学校に戻すってということがやっぱり目的にはせずに、どこかで受け皿があるような、みんなで支えるよという形に、保護者の方もみんな意識をこう変えていくべきじゃないかと。文科省も言ってると思うんですよ、元に再登校ができるのが目標ではないということで、そこで実技自己実現がきちんとできれば、それは、場所はどこであってもいいですよ。でも、特認校ですね素晴らしい場所もあるし、フリースクールっていう話もあって、だから学校に来れなければちゃんと他の居場所があるよと、学校に行けないことが悪い選択ではないんだよっていうのをきちんと周知していただくと。先生達も大変なんですよ、やっぱ一人不登校が出ると、精神的にも何で俺悪かったのかなとかあって自分を責めるようなことになるし、連絡を取るのはどうしても夜とかになってしまって、なかなか働き方改革にも繋がらない。だから先生達にも、いや不登校が出ても、それはその子がそういう自分らしい選択を一步踏み出したということで、悪いことじゃないんですよということで、先生達も何かこう気が楽になって、だからといって、いいよ、来んなら来んでってそれは困るんですけど、真摯に向き合いながらも君がそういう選択をしたんだったらそれも有りだねっていうことで、応援できるような何かそういう雰囲気があるといいなというふうに思いますし、もう本当に、何かちょっと悩んでいる子ども達を支えるスタッフがですね、すごく充実して素晴らしいなというふうに思います。後は、その前段階としてですね、やっぱりそのいじめた子に対するケアというのも先程ありますけど、やっぱり好きでいじめるんじゃないと思うんですよ。必ず理由があると思うんですよ。それがこの前のメディアの話ですよ。今ゲームとかたくさん夜遅くまでやって、今日ニュース見てたら新築のアパートやマンションとかは、ゲーム専用の部屋が作ってあってそこでゲームに没頭できる、そういう世の中なんです。もう本当に子ども達が、ありましたよね講演会でね、ゲームやそういうあれ見てたら前頭葉が退化していくと。そうすると主体性もなくなるし、感情のコントロールもできなくなるし、目も悪くなるし、そういった状態になるわけです。そういう状態の中にいるといじめもそれは増えるでしょうし、不登校にもなるでしょうし、親の言うことも聞かないということで、やっぱ負の連鎖になると思うんですよ。だからこういう対応もしながら、ぜひ何かそのメディア、なかなか本当に来ていただきたい人はそういう講演会にもこないし、なかなか目の届いて欲しいところに届かないというのはあるんですけど。もう幼稚園生ですよ、3歳児でも7割ぐらいは確実にいじってますね、ゲームとかYouTubeとか見てて、そういう世界で育ってますので、やっぱそこを何とかしていかないと、今後ますます増えていくんじゃないか

なって。なにか市でそういうメディアコントロールに取り組めると嬉しいなと思います。

1 1 報告について

報告 1 市議会定例会報告（9月議会）について

（田中部長）

市議会定例会報告（9月議会）について説明

（佐藤委員）

黒部議員がおっしゃった質問に対してですね、その授業を配信して学びの提供をした学校があるというところ、どこですか。いやすればいいなと思って。

（都甲教育長）

これはですね、どこって言うより、何かちょっと長期で休む子がいてそこにただで、どこかの小学校、細田小、挨拶だけですね。

（佐藤委員）

もう挨拶だけでもやっぱりいいですよ。やっぱりその子その子でその不登校の要因って違うから、これが全ての子に当てはまるとは限らないけど、でもそれでやっぱりみんなと繋がっているっていうのが感じられれば、何かいい取り組みだなと。

（都甲教育長）

あとは同じく黒部議員なんですけど、AI型教材アプリというのは、これは問題を作ってその後に応じた調査をする。

（佐藤委員）

結局、やって、次これねって、だから先生になってくれるわけですよアプリが。それでやるわけなんですけど。

これも非常に便利ではあると思うんですけど、デメリットもあると思うんですよ。結局、本当の学力は何かって考えるとですよ、やっぱり自分の課題はこれだ、で、それをクリアしたら新たな課題が出た、で、ずっとこう学び続ける力っていうのはすごく大事だと思うんですけど。

私が小学校行ったときは非常にそこ辺も進んでいない。パソコンから出る問題だったんですけど、やっぱりそれで子ども達は何か満足してしまってますよ、相手がなんせコンピューターだから、これでわかったんで僕あと100点貰ったらもう終わりみたいなところがあつたんで、やっぱその辺はこのAI型教材のちょっと怖いところかなと。もうAI様って感じだったんですよ。もうこれで100点で終わったらこれで俺は完璧って。

でもそうじゃないって思うんですよ。やっぱそこからまた更に新たな課題を見つけていくっていう、授業それでされると思うんですけど、あまりそこに偏ってしまうと怖いなというのは感じました。

(八木委員)

私もそのAI教材についてですけど、ちょうどアメリカで小学校の先生の友人がこないだ帰ってきたんですけど、すごく早かったんですアメリカはもう一人1台パソコンをですね。それを持って帰って家で先生とやりとりしながら宿題とかやっていたんですけど、持って帰るのって聞いたら今持って帰れないそうです。なぜかという、壊す子が多いから補償になるというので。

どんなですかね、全国で持ち帰りが出来るのは。

(都甲教育長)

色々調査かけて、うちは何で持ち帰りできないかという、通信環境が整っていない家庭が結構あるんですよ。だから、100%持つて帰ることはできるんですけど、同じことしなさいって言えないんですよ。差別になるんじゃないかってなってしまうんで。だからそのAIアプリについてもわかる、いいのはわかるんだけども、それを入れて持って帰られてもできない子がいるというので、そういう通信環境は整ってなくてもできるアプリを今探している状況なんですね。

あと、日南市の学校でいえば、普段から持って帰らせている学校は少ないです。おっしゃったように壊すんじゃないか、水こぼすんじゃないかとかですね。補償については、今うちの方は交換とかしてやっていますけど、もうその台数も限られていますし、結構ですね、落として画面割ったりするんですよ。だから今後はどうなのかなと、やっぱり自己負担で保険に入らせるのか、それを市が持つのかっていうのをですねまた考えていかなきゃいけないし、正直、低学年の子どもが持って帰ったら非常に危ないっていうか、その人の心配もあるし。

(八木委員)

福岡の中学生だったかな高校生だったか聞いたんですけど、持って帰ってセキュリティーかかっていますよね、簡単に子ども達外せるんですよ。そして記録とかそういうの全部消してできるというそういう危険性もあるんです。やっぱり何かねそこまでできないですよ。

(佐藤委員)

メディアコントロールじゃないけど、やっぱりそんな画面見る時間を増やさせてどうなのかな。子ども達は利き目しか使わないそうなので、フラットな画面で、反対側の目は全然成長しないと。だからすごく右と左の視力差が出るとかですよ、なんかその辺の健康面の危惧とかですね、すごく私は感じるんですね。

(都甲教育長)

うちの教育委員会の考え方としては、やっぱり授業でしっかり使いましょうよということですね。だんだんそこら辺の使い方も、も

う低学年から中学生までですよ、授業で使ってくれますし、うまく使ってくれる感じもあるので、そこをしっかりとって、それにプラスアルファで家の家庭学習はどうしよう、何とかこの今考えてるアプリを入れてですね、持って帰らせることができればと思ってますけど。

幸い、この2週間前の新聞で、新しく機械を変える時にも、何か国がお金を出すとかいう話をしてくれたので、その部分っていうか、うちの市としてもお金を負担できるのかな。もう全部変えなきゃいけないと膨大なお金になるので、ちょっとどうしようかなってことだったんですけど、それが国がお金を出してくれることになったので、そういうのも頭に入れながら活用していくことが大事かなって思っています。

1 2 その他

(1) 10月行事予定について

(2) 市内文化財視察

- ① 日時 令和5年10月25日(水) 午後1時から
- ② 集合場所 ふれあい健やかセンター 玄関前駐車場集合
- ③ 内容等 現在調整中

(3) 第8回 教育委員会会議(定例)

- ① 日時 令和5年10月25日(水) 午後3時から
- ② 場所 日南市役所・別館2階会議室6

(4) その他

① ふれあいコミュニケーションについて

今月初めに福祉課を通じて社会福祉協議会に、民生委員児童委員協議会会長宛に依頼文を送付。協議会で出席者等を決定すること。詳細は当局と協議会等で調整するので後日改めて説明する。

② 令和5年度市町村教育委員会研究協議会について

国主催の本協議会の参加申し込みについて、第5回がオンライン開催で、他市町村の教育委員等との有意義な意見交換ができる場であるので、ぜひとも参加して欲しい旨を説明。なお、当日は定例教育委員会の開催予定日だが、参加の有無によって日程等を変更する。

1 3 閉会